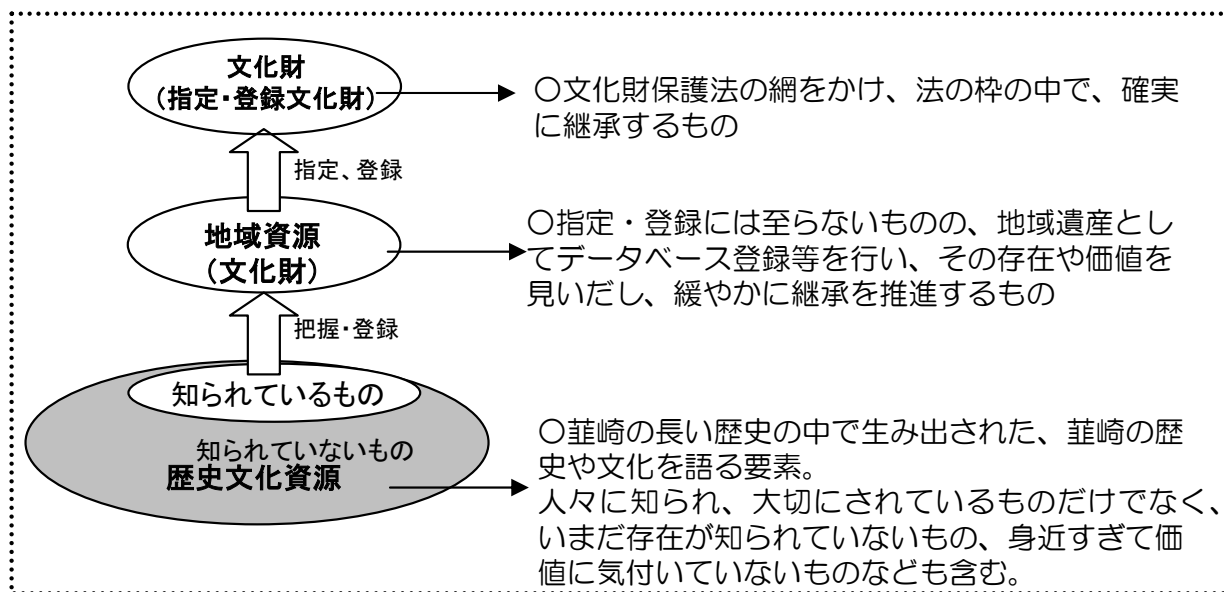


韮崎市では、歴史文化基本構想を、韮崎の地域資源・文化財を守り育て、将来へと伝えていくことを通じ、今以上に魅力的な韮崎の実現を目指すための基本構想として策定。

★基本構想の目的の5本柱★

○「ストーリー」と「歴史文化資源」による歴史文化の継承

○「文化財としての保護」と「地域資源としての継承」の両軸の確立

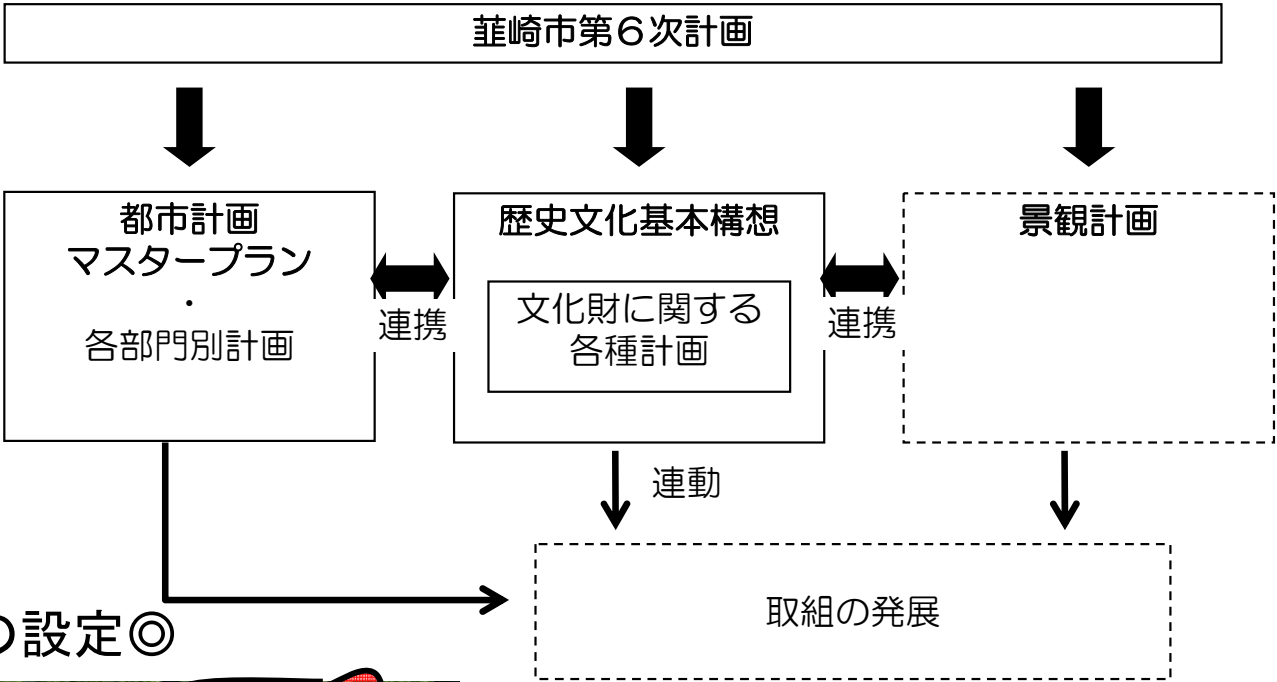


○「歴史文化」を活かした「地域づくり」の取組み推進

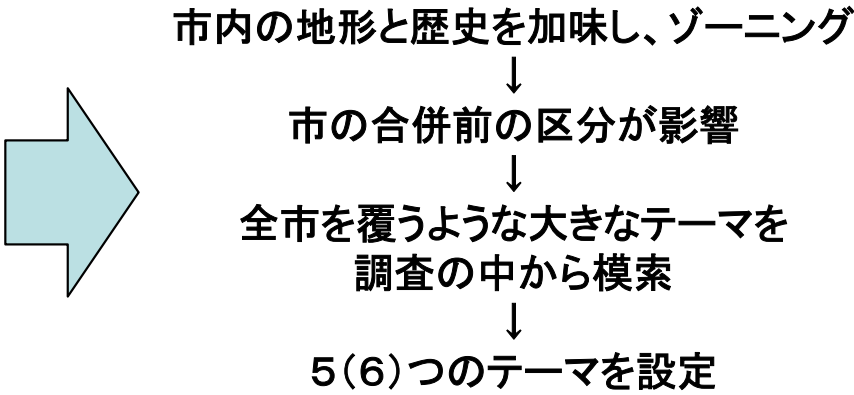
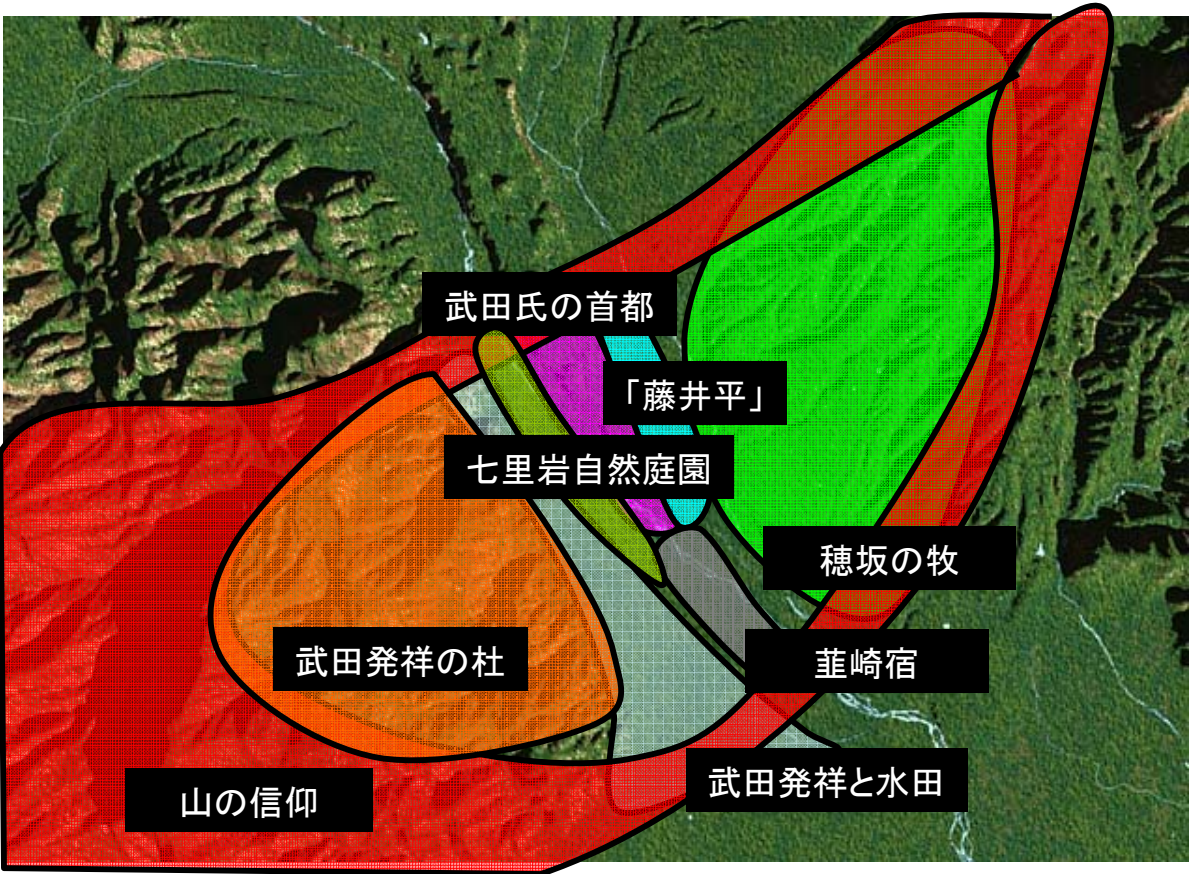
○「行政」と「市民」との協働体制の充実

○韮崎の歴史・文化・自然的環境への関心と誇りの醸成

◎基本構想の位置づけ◎



◎韮崎市の歴史文化的テーマの設定◎



歴史文化の側面から見た、韮崎市の特性

○太古の地殻変動などにより、他に例の見ない壮大な地形が形成された。

○韮崎では、その固有の地形的特色を活かし、また、克服しながら、人々が暮らしを営んできた歴史がある。

○現在の韮崎には、その歴史の過程で生まれた各時代の歴史文化資源が市域全体に、重層的に分布しており、時代の積み重ねや、過去とのつながりを感じることでできる環境が形成されている。



韮崎市の歴史文化のテーマ

地形条件を背景とした、韮崎市の歴史の骨子を語るテーマ

韮崎の礎

武田氏ゆかりのまち

治水・利水のまち

山の神々に守られたまち

ヒトとモノの結節点のまち

韮崎の生業

◎基本構想の基本的方針◎

●基本構想の基本的方針案(大テーマ)

<基本理念>

地域づくりにつながる保存活用、ストーリーによる保存活用、市民と行政とのパートナーシップによる保存活用 など

<基本構想の目標・将来像案(大きなテーマ)>

韮崎では、太古の地殻変動で形成された比類ない壮大な自然地形、及び、自然地形との関わりの歴史の中で生み出された各時代の文化が、重層的に展開し、現在の歴史的風致が形成された。

▼...そこで

韮崎の歴史文化を育んできた自然地形と、その上に広がる歴史文化資源を将来へ受け継ぎ、もって、地域住民にとって暮らしやすく、誇りや愛着を持て、来訪者にとっても魅力的な韮崎の実現を目指す

。(将来目標のイメージ) 韮崎の歴史文化を育んできた自然地形が保全され、その上に様々な歴史文化資源が息づき、新たな文化が創出され続けるまち

<基本方針>

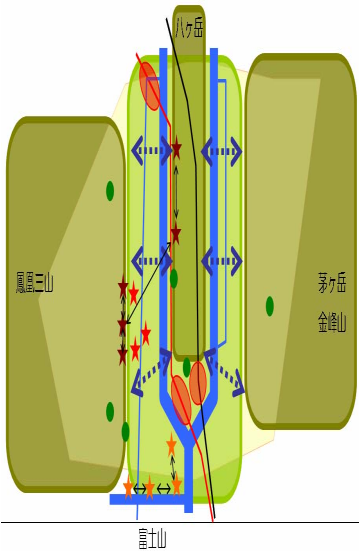
保 存：規制の網をかけ保護する。また、規制のかからないものについても、その存在を知らせ共有することで、極力残すことを念頭におきながら、緩やかに継承する。

活 用：(ソフト的な面の取組みを中心に、) 資源の持つ価値をわかりやすく伝え・見せる。地域の中でその存在が際立つようにすることで、その価値を向上する。
→さらに向上したことを伝え・見せるという循環を目指し、地域づくりの根幹とする。

利活用：(ハード的な整備等を含めて、) 資源の持つ価値を、周辺環境の向上を目指した地域づくりへ波及させる。

調 査：保存・活用・利活用を支えるため、歴史文化資源を発掘し、その価値を高める調査を継続し、基礎データの把握に努め、適切な保存・活用・利活用に向けた検討を推進する。

自然地形の保全と、時代の積み重ねを体感できる
壮大な眺めの継承
(※将来目標の象徴として...)



保護(保存・活用)の枠組み

歴史文化資源の保存活用を効果的に進めるための4つの枠組み

【文化財等としての保存活用】 葦崎を象徴する資源を文化財等に指定して保存活用

- 文化財としての価値の高い資源や、テーマやストーリーを象徴するようなについては、文化財保護法・条例を活用し、適切に保護を図る。
- これらの資源については、文化財の指定・登録を進めながら、それぞれの文化財ごとに保存活用計画を策定する。

【関連文化財群としての保存活用】 関連の深い資源同士をネットワーク化して保存活用

- 5つのテーマごとに整理された資源群の中でも、より関係の濃いもの同士を関連付け、濃密なストーリーの中で、具体の保存活用につなげる。
→資源の価値を広げる・深める、ストーリー性・インパクトを持たせる、テーマに関心のある市民を巻き込む、など)
- これまでの文化財に関わる事業の再位置づける
→「再発見ウォーク」による文化財等を組み合わせたストーリーを市民との協働で作り出す
→テーマの追加・見直しへ

【保存活用区域としての保存活用】 特定範囲に存在する資源群をまとめて(面的に捉えて)保存活用

- 集落等の地域コミュニティの範囲内に集中する歴史文化資源を総合的に捉え、地域づくりと絡めた保存活用を進める
→暮らしに密着したきめ細かな資源の発掘・継承、地域活動と連携した保存活用の取組み、など。

【「武田の里」遺産としての保存活用】 それ以外のものは、データベース登録からの保存活用

- 指定・登録文化財、関連文化財群、保存活用区域の保存活用計画の対象とならない歴史文化資源についても、葦崎の歴史文化を構成する重要な要素であることから、「武田の里」遺産などのデータベースへの登録により、その存在を広く知らせ、緩やかな継承を図る
→市民が歴史文化に触れるきっかけ、資源発掘や保存活用に係る市民意識・活動の盛り上げ、開発時などでの配慮のお願い、将来的な文化財・関連文化財群・保存活用区域へのストック、など)。

【関連文化財群としての保存活用】 関連の深い資源同士をネットワーク化 して保存活用

- 5つのテーマごとに整理された資源群の中でも、より関係の濃いもの同士を関連付け、濃密なストーリーの中で、具体の保存活用につなげる。
→資源の価値を広げる・深める、ストーリー性・インパクトを持たせる、テーマに関心のある市民を巻き込む、など)
- これまでの文化財に関わる事業の再位置づける
→「再発見ウォーク」による文化財等を組み合わせたストーリーを市民との協働で作出す
→テーマの追加・見直しへ

これまでの文化財の活用の取り組み

- ◎歴史再発見ウォーク
- ◎史跡に関わるウォーク
- ◎発掘調査見学会
- ◎民俗資料館によるミニ企画展

継 続
新 規
新視点
など

ストーリーの構築から
テーマの追加・見直しへ

多種多様なストーリーの構築

(既存例)

- ★穴山氏のふるさとウォーク
- ★武田発祥の地を潤す水の涼ウォーク
- ★信仰の山「苗敷山」ウォーク
- ★川を治める知恵と幻の御座田村探しウォーク
- ★高下駄履いたお山の神様に会える上今井ウォーク
- ★甲州裏街道「原路」からの風景を楽しむウォーク
- ★武田発祥の地「城」ウォーク

(新視点例)

- ★史跡のみならず、周辺も含めたストーリー
- ★遺跡のみならず、遺跡周辺も含めたストーリー
- ★ストーリー性を持ったミニ企画展

【保存活用区域としての保存活用】 特定範囲に存在する資源群をまとめて (面的に捉えて)保存活用

- 集落等の地域コミュニティの範囲内に集中する歴史文化資源を総合的に捉え、地域づくりと絡めた保存活用を進める
- 暮らしに密着したきめ細かな資源の発掘・継承、地域活動と連携した保存活用の取組み、など。

地域コミュニティを活かすことの想定される利点

- 地域資源の所有者等が、保護に関する情報を入手しやすい。
- ストーリーを共有しやすく、地域資源を核として周辺の保存・活用についてまとまりやすい。
- 既存の清掃・防災・防犯活動などを地域資源に対する活動に汎用できる

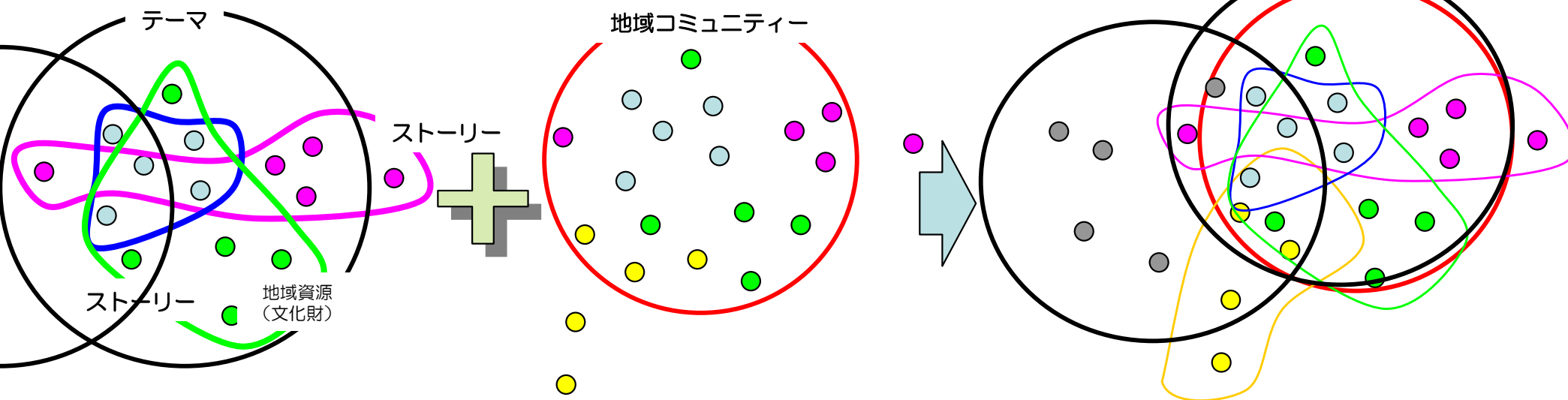
●

地域コミュニティを活かすことの想定される欠点

- コミュニティの明瞭でないエリアを含むテーマ・ストーリーの保存・活用の推進が困難

●

テーマ・ストーリーが重なり合うことを前提に、
テーマ・ストーリーを構成する地域資源を担うコ
ミュニティ単位を地理的な区分などを考慮し
て保存活用区域を設定。



【保存活用区域としての保存活用】 特定範囲に存在する資源群をまとめて (面的に捉えて)保存活用

- 集落等の地域コミュニティの範囲内に集中する歴史文化資源を総合的に捉え、地域づくりと絡めた保存活用を進める
- 暮らしに密着したきめ細かな資源の発掘・継承、地域活動と連携した保存活用の取組み、など。

韭崎の礎

武田氏ゆかりのまち

治水・利水のまち

山の神々に守られたまち

ヒトとモノの結節点のまち

韭崎の生業

「治水・利水のまち」「武田氏ゆかりのまち」「韭崎の生業」3テーマが濃く重なり、他の3テーマについても関係を求めることのでき、構成される要素などが集中していることからモデル地区として、神山町及びその周辺と捉える

テーマのエリアと構成要素の分布などの検討（モデル的な取り組みとして）

- ★全てのテーマが全市を覆うが、ストーリーの中身としての粗密
⇒その粗密を考慮
- ★テーマもしくはテーマに含まれていない構成要素の分布
⇒分布の集中を考慮
- ★テーマ・ストーリーの評価に影響のあるもの（プラス面・マイナス面）
⇒（長・中・短期的な）緊急性を考慮
- ★市域全体へ展開するためのモデルとして
⇒モデル地区としての妥当性
- ★地域住民との関わり
⇒地域住民とのさらなる協働の方向性を考慮